

第1回 J-DESC 情報システムワーキンググループ議事録（案）

日時：平成16年6月5日（土）10：50～18：00

場所：ラフォーレ修善寺 研修室

出席委員：坂本竜彦（WG長）、相田吉昭、池原実、氏家恒太郎、斎藤実篤、佐藤暢、佐藤幹夫、鈴木紀毅、坪井誠司、町山栄章、横川美和、宮坂 郁（東京大学；難波委員代理）

オブザーバ：伊藤久男（J-DESC 執行部）、村山雅史（科学計測専門部会長）、倉本真一・志賀義弘・松田繁美・黒木一志（以上、JAMSTEC CDEX 科学サービスG）、飯塚・湯山・外狩・馬場辰男（以上、CCS）、福富 淳（AESTO IODP 科学サービスグループ）、笠原 順三（サイクル機構 東濃地科学センター）、岡田誠（茨城大）、高橋 まゆみ（CDEX）

事務局：山川 稔

欠席委員：金松敏也、成瀬 元、難波謙二

【議事内容】

- ・ 出席者の自己紹介を行った。
- ・ WG長より議事次第案の確認がなされた。
- ・ 第0回科学計測専門部会情報システムワーキンググループ設置検討会の議事録（案）が確認された。
- ・ CDEX 倉本氏より、J-CORES（JAMSTEC CORE SYSTEMATIC）の開発業者が CCS に決定した旨と、CDEX 科学サービスGで新たに高橋共馬・松田繁美両氏を採用した旨の報告があった。

1. 平成16年度 J-CORES 開発項目について

1. 全体概要

- ◇ CCS 飯塚氏によりプレゼン資料1に沿って説明がなされた。
J-CORES は2005年度中に開発が終了し納品される。

2. 古生物データ管理

- ◇ CCS 湯山氏によりプレゼン資料1とデモによる説明がなされた。
- ◇ CDEX 志賀氏より、Stratigraphy の古生物層序データベースの構築

に必要な項目の洗い出しを行うため、J-DESC で意見を取りまとめて欲しいとの要望があった。

- ◇ 坂本WG長より、j-cores-ml を通じて意見収集すべきとの回答があった。
- ◇ 単にMLに流すだけでなく確実に意見が収集できるような配慮はできないか？（倉本）
- ◇ 意見収集のための要点をCDEX側（志賀氏）で整理した上で、相田・鈴木両委員を通じてMLに流してはどうか（坂本）。 Action Item 1-1
- ◇ 国際の枠組みの中で検討すべきである（鈴木）
- ◇ このWGでの要望をSciMP委員に託し、次回SciMPのAGENDAに組み込んでもらってはどうか（斎藤）。 Action Item 1-2
- ◇ 個別の質問・コメント
 - 微化石産出リストを表示できるか？（鈴木）
恐らく可能であるが、CDEXと相談の上検討（湯山）
 - アンドゥ機能はあるか？（佐藤暢）
コントロールポイントの追加・削除は自由にできる。
 - mbsfをつけよ。深度の0.0が切れている。（伊藤）
 - mbsf, mcd等の様々な深度に対応するのか？（坂本）
深度補正については別途調査検討中である。（湯山）
 - Stratigraphy toolと古地磁気との関係は？（坂本）
古地磁気反転の白黒バーを入れて欲しいという要望があるため今後検討する予定である。（湯山）
 - どのような手順で古生物と古地磁気を統合するか？
最初は個別にage modelを構築し、その後融合させる（鈴木・坂本）

3. Paleontology Working Group 報告（相田・鈴木）

3/15-16にワシントンDCで開催されたPaleontology Working Group会議の報告を相田委員が行った。データベースとリンクする古生物学辞書の必要性と、MRCを維持する上でIODP-MIと契約してSOCを得ることが必要であることが強調された。詳細は科学計測専門部会で報告している。

4. CHRONOS について

Paleontology Working Group において議論された Chronostratigraphic Network for Earth System History (CHRONOS) の概要について鈴木委員から説明があった。CHRONOS は NSF のプログラムであり、様々なデータベースの連携・統合を目的としている。古生物辞書は CHRONOS が対象とする重要なコンポーネントの一つである。

(質疑応答 & コメント)

古生物関連では実際に稼働しているのか？(松田) 白亜紀の有孔虫のみ現在稼働している。(相田)

化石画像辞書を開発すべきである。これを Paleontology WG で提言している。(相田)

米国のプログラムに対して IODP SAS が提言することは問題が生じる(倉本)

現状では J-CORES には搭載できないもの(画像辞書)が、CHRONOS にできあがる可能性がある。IODP としては有効利用すべきであろう。(相田)

Paleontology WG の提言を受けて、SciMP がどのような判断をするかを待ってから、今後の対応を検討することとする。(坂本) Action Item 1-3

Stratigraphy について、古地磁気年代層序に関するスキーム、および古生物層序と古地磁気層序の統合の手順と管理システムについて検討、評価を行うべきである(坂本) Action Item 1-4

5. 基本データ管理システム(外狩)

プレゼン資料 2 に基づき、コア深度補正に関する調査・検討内容の報告が CCS 外狩氏によってなされた。

(質疑応答)

SciMP ではコア深度補正について議論をしているのか？(坂本)問題を認識はしているが具体的な議論は開始していない(斎藤)

複合深度系を作成する際に結果的にコアの長さが伸びているのは、コア自体が膨張していることによる(斎藤・坂本)

imcd は作成したことは無かったのか？(町山)研究者ベースで行われている。計測センサー、計測間隔が異なり、回収率の影響も受ける

ので簡単ではない。(斎藤)

コアとログの深度のずれは、大深度になるほど大きくなるので、今後きちんとした検討が必要になるだろう(松田)

Splicer(スプライサー)は対比点が1コアに1点しか設定できないことが大きな問題である。その結果コアの伸縮もできない。一方 Sagan(セイガン)はコアの伸縮機能はあるが、splicing 機能は無く、ユーザーがコアとロギングの深度表示系を選択できない。

(坂本)

したがって、splicer と Sagan を統合したようなソフトが開発されることが望ましい。(坂本・斎藤: 詳細は [Recommendation 1-1](#))。このことを含め、IODP における深度補正について、あるべき新しい方法について整理して文書化していく必要があるだろう(坂本)。 [Action Item 1-5](#) また国際の枠組みの中で議論していく必要があるため、SciMP に対して提案することとする(坂本・斎藤) [Action Item 1-6](#)

6. 堆積岩石構造データ管理サブシステム

- CCS 外狩氏により、堆積岩石構造データ管理サブシステムに関するプレゼンがなされた。
- 組成と粒度を同時に表示できるか?(町山) (回答)可能である(外狩)
- 地層境界は記載できるか(横川)? (回答)可能である(外狩)
- サブユニットは定義可能か(斎藤)? (回答)現状では不可能。サブユニットをユニットとして定義することで対応(外狩)
- 複数のユーザーが同時にアクセスすることで問題は生じないか?(回答)異なる分野であればアクセスするフィールドが違うので問題なし。同じ分野の場合は後に更新したデータが登録される。
- (意見)セクション単位での記入は1人だけがログインできるようにできないか?(回答)簡単ではないが可能。
- “同時保存防止問題”については今後検討を要する(坂本)。
[Recommendation 1-2](#)
- (意見)よく使う岩相などを効率よく入力するために学習機能のようなものはないか?(回答)可能かも知れない。
- 地層の傾斜を入力するフィールドはあるか?(斎藤) (回答)

入力できる（外狩）。2種類の角度を入力することで、傾斜の補正を行うことができる（氏家）。孔の傾斜については Science Party が必要に応じて行うべきである。

7. 計測データ管理サブシステム

- CCS 外狩氏により、計測データ管理サブシステムに関するプレゼンがなされた。
- 反射やロギングデータの読み込みは可能か？（回答）ASCII データであればロギングデータの読み込み可能。反射は短冊状の図を CLV に読み込むことが可能。
- 一つの機器に対して同時に複数のアップロードが行われることがあるか？（回答）テクニシャンが入力するのでその心配はない。上書きを禁止することも可能。（外狩）
- JAVA を用いる理由は？（坪井）（回答）セキュリティーの問題、クライアントによる書き込みの問題、作図の問題等で web ベースにはしていない（志賀）。
- マルチプラットフォームでの問題は発生しないか？（坪井）（回答）確認済みである（志賀）。

2. IODP 情報サービスセンター（ISC）について

1. CDEX Information Service Technology :

- CDEX 松田氏により CDEX で開発中の Information Service Technology に関して PPT によるプレゼンがなされた。
- Internet 上で XML を用いるシステムである。データカタログを持ち、他の IO のデータを表示することが可能。
- コメント：前回 WG 以降の短期間の作業にも関わらず、驚くべきほどの出来映えで、イメージ通りのシステム構築が開始されている（佐藤暢）。
- 今後の開発に期待したい（委員一同）。

2. ISC を取り巻く状況

- CDEX 倉本 GL より ISC を取り巻く状況と日本の取り組みについて説明がなされた。
- IODP におけるあらゆるデータの clearlinghouse と coordination

を担う組織が ISC である。ISC の概念は、iPC の要請に基づき、iSciMP の Database Working Group が原案を提案し、SPC の承認後、IODP-MI に forward された。ISC の委託業務を担当する組織の公募は早ければ本年末に行われる見込みである。

- ODP 含め、これまで多数の掘削が行われているが、それらのデータをまとめて何かを論じた研究は少ないのでは？。多分、データを取り出しやすいデータベースになっていない事も一つの要因では？。例えば、全掘削点から early Miocene が得られている掘削点を検索したい、さらには太平洋内でそれらの岩相（記載・柱状）を抽出して対比したい、などなどの要求に耐えられるシステムとなっていないのが現状。お金・時間のかかる話ではあり理想論ではないが、ISC にはこのような機能を付加して欲しい。これはかなりの ” 売り ” になるのでは？。
- ISC の構築・立案に関する SAS の役目は？ ISC は既に SAS の手を離れており、ISC は IODP-MI が決定する仕様に基づいて設置され、IO は ISC の要求することを実施する。
- ISC に対する本 WG のスタンス：本 WG は科学者の立場から ISC の望まれる機能等を検討することがマンドートであり（Action Item 0-1 は継続）、特定の組織に対する積極的アドバイスは行わない。ISC の RFP に対して応募を予定している組織から、本 WG に対して直接検討依頼があった場合には、ユーザーの意見をとりまとめてアドバイスを行う。その際には J-DESC を通じて正式な要望書が必要であろう。 Recommendation 1-3

3 . その他

1. 次回開催について：次回開催日程は、第 3 回 SciMP（冬開催）の事前打合せとの兼ね合い、坂本WG長が参加する ACEX onshore party の日程、ISC の RFP の状況などを考慮して後日決定することとした。

別添 1：第 1 回情報システムワーキンググループ Action items and Recommendations

以上。

第1回情報システムワーキンググループ Action items and Recommendations

2004.6.5

[情報システムWG_Action Item_1-1] 古生物層序標準データベースの検討（国内）

- ・ J-CORES古生物データ管理サブシステム(Stratigraphy)に実装予定の古生物層序標準データベース（年代軸）について，j-cores-m1を通して意見を収集し，とりまとめて結論を出す．

担当者： 提起・とりまとめ：相田・鈴木
意見聴取のための要点を整理・相田・鈴木に渡す：CDEX（志賀）
実行期限： a.s.a.p（志賀から提起）

[情報システムWG_Action Item_1-2] 古生物層序標準データベースの検討（国際）

- ・ Action item1-1と関連して，IODPにおいてマルチプラットフォームで使用する古生物層序標準データベース（Standard time scale）について，SciMPパネル委員からSciMPに対し，SciMP Paleontology WGで検討し，（当面の）世界標準を議論し，決定するように，提起する．

担当者： 相田・鈴木
実行期限： 2004年6月のSciMPのagendaとして提起．
2004年12月までに意見を集める．

[情報システムWG_Action item_1-3] J-CORESとCHRONOSなど他データベースとの関連性

- ・ J-CORESとCHRONOSなど他データベースとの関連について，2004年6月のSciMPにおける，Paleontology Working Groupからの提言および議論の結果を受け，対応方針・項目について提案する．

担当者： 相田・鈴木
実行期限： 2004年6月のSciMP後

[情報システムWG_Action Item_1-4] J-CORES古生物データ管理サブシステムにおける

古地磁気データ管理についての検討

- ・ J-CORES古生物データ管理サブシステム(Stratigraphy)について，古地磁気年代層序に関するスキーム，および，古生物層序と古地磁気層序の統合の手順と管理システムについて検討・評価を行い，recommendationを行う．

担当者： 金松・鈴木

実行期限： 2004年度a.s.a.p.

[情報システム_Action Item_1-5]深度補正について（国内）

- ・ IODPにおける深度補正について，あるべき新しい方法について整理して文章化する．

担当者： 坂本・斉藤

実行期限： 2004年6月中

[情報システム_Action Item_1-6]深度補正について（国際）

- ・ 情報システム_Action Item_1-5に基づいて，これをSciMPに対して提案する．

担当者： 坂本・斉藤

実行期限： 2004年6月のSciMPのagendaとして提起???

[情報システム_Recommendation_1-1] J-CORES深度補正について

- ・ J-CORES深度補正についてはソフトウェアを新規開発することが望ましい．情報システム_Action Item_1-5に基づいて，詳細な仕様を煮詰めることが望ましい．必要に応じて情報システムワーキンググループメンバーは惜しみなく協力することが望ましい．
- ・ 開発の要点として，既存のSplicer, Segan(LDE0-BRG)の機能を継承し，Splicerについては1本のコア内で複数のタイラインを設定できコア内での深度の伸張ができること，Seganについては，コア・ロギング両方の深度系が選択できるようにすること，Splicing tableやOffset tableが自動生成されること，結果として生成されたSplicing recordに元のコア情報（コア番号，もとの深度など）が保持されること，個々のコアからサンプリングされた試料の深度計算機能を有すること，などが必要である．

[情報システム_Recommendation_1-2] J-CORES/VCDについて

- ・ J-CORES/VCDについて，ユーザー書き込み権限(アクセス制限または警告)，同

時書き込み防止について検討することが望ましい。Section単位の編集・保存について同時に1ユーザーしかできないようになっているとよい。

[情報システムWG_Recommendation_1-3] ISC Proposals

- ・ ISC日本誘致に対し、プロポーザルを提案しようと考えている組織・機関で、具体的な意見がほしいと考えるところがあれば、J-DESCを通して、本WGに対して正式に要望を出すことを提言する。